

令和4年度 第53回九州地区子ども会育成研究協議会（長崎大会）参加報告

熊本市子ども会育成協議会 事務局長 白石和典

九州子ども会育成研は令和2年度佐賀大会＝新型コロナウイルスまん延により延期、3年度もついに中止となり、3年ぶりの開催であり、私はこの様な大会は初めての参加でした。

大会テーマは「長崎発／子ども会の復活を目指して！！」～コロナ禍の今、私たちにできること～と正にどの県・市町でも直面している内容です。そして、「趣旨」として……地域の子どもの会は、会員数の減少（※1）、保護者の理解不足、価値観の多様化（※2）、地域の結びつきの希薄化、子ども会自体が消滅、コロナ禍により活動停止……などが上げてあり、これもまた市子協も直面している課題です。

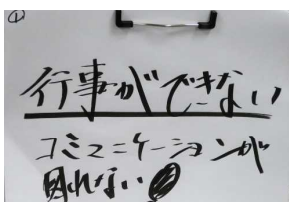
※1、※2については市子協としてはどうしようもありませんが、その他については事務局長に就任早々から子ども会活動の活性化に向けた対策に取り組んできましたので、啓発資料の作成や実践の積み重ねがありました。

本大会では3つの部会と九子連推進研究会の4部会に分かれており、市子協はそれぞれに1人ずつの参加で、協議の柱は①「コロナ禍で行った子ども会活動」②「ウィズコロナの子ども会でできそうな活動」③「これから取り組みたい子ども会活動」でありどの部会も共通でしたので、参加者4人で市子協が今まで取り組んできた内容を大会に参加する前に確認や発表の役割分担を行いました。

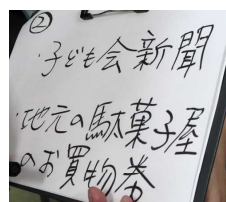
実際に参加してみると3つの部会は「全員参加型フリップ式ディスカッション」で進められ、順次幾つかの具体的な課題が示されましたので、3人で分けていた発表内容の役割分担にとらわれず、必要に応じて発表することにしました。1つの部会に6～7人の班が10班以上あり熱気に包まれた活発な協議が行われました。子ども会が直面している課題はどこもほとんど同じでした。今後の取り組みとして他県から、「大人も一緒になって楽しめる活動、親同士が親しくなるような活動」などの意見が出ました。活性化のために大人も含めた活動に視点を当てることの大切さに気づかされました。

班には私の他に行政の担当者、子連の役員、子連会員と様々でしたので、大会テーマ等に沿って事前にまとめていた「啓発資料作成について」「コロナ禍で行った子ども会のHPによる紹介」「ウィズコロナの子ども会でできそうな活動」「これから取り組みたい子ども会活動」など広範囲の内容について発表できました。更に部会全体のまとめの段階で行政等の取り組みをとということであったので、班から推薦され、持参していた資料を提示して市子協としての今までの取り組みについて詳しく発表する機会を得ました。

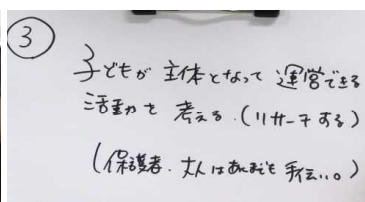
この大会では、他県の取り組みについて学ぶことができ大変参考になりました。と同時に市子協の今までの取り組みも紹介でき、市子協の取り組みに自信も覚えました。今回の成果を今後の啓発活動に活かしていきたいと思えます。



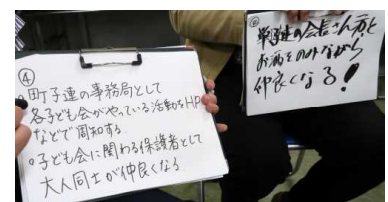
①困ったこと



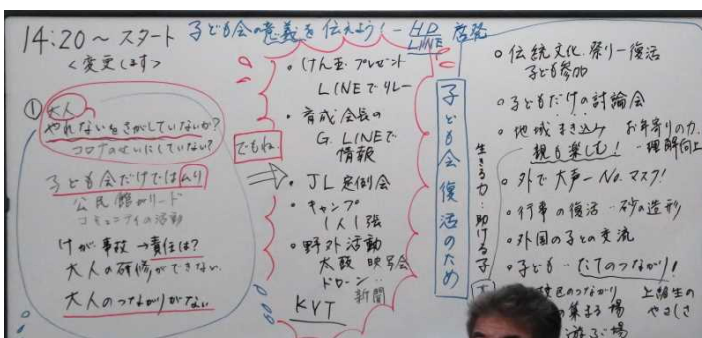
②やった活動



③やれたらいいね



④今、何ができるか



3部会まとめ

9班



第 53 回 九州地区子ども会育成研究協議会（長崎大会）に参加して

令和 4 年 11 月 12 日～13 日 長崎市民会館

大会テーマ 「長崎発 子ども会の復活を目指して！！」

研究協議会は、同じ内容で 3 つの部会に分かれて、全員参加型フリップ式ディスカッションを進めるとの事だったので、市子協の参加者 4 名で事前に、発言の内容と、役割分担を確認するために打合せをしました。参考資料として、市子協で作成した子ども会の活動や実際などの冊子も持参しました。

九州各県の参加者 270 名が 3 会場に分かれ、会場ごとに 6、7 人のグループの輪が 10 個以上できました。

まず、グループごとで自己紹介をし、ニックネームを決めて呼び合うことになりました。「コロナ渦で行った子ども会活動」「ウィズコロナの子ども会でできそうな活動」「これから取り組みたい子ども会活動」一人ずつバインダーに書き、意見を出し合いました。

初めて体験するコロナ渦での子ども会活動に、みんなが集まる大きい会場がない。集まってクラスターになってしまわないか。今、子ども達が笑顔になる活動はなんだろうか。など、悩み苦しんだ 3 年間だったと言うのが共通していました。

市子協ではコロナ渦でも活動している子ども会を H P で紹介したり、冊子作成や、用具の貸出し、感染対策をして、時短や人数減での野外活動などを発表しました。

最後に、この 3 年間の経験をいかしピンチをチャンスに変える！対策を万全にして、活動を止めずに、続ける！そして、今こそ子ども会の原点に立ち返り「子どもの手による子ども会」の実践、ジュニアリーダー・シニアリーダーの育成や、関係団体との連携を深めようと決議しました。

持参した市子協で作成した子ども会活動の冊子などを他県でもコロナ渦での活動の参考にしてほしいと思います。



記念講演では 長崎大学副学長 泉川公一教授の「新型コロナウイルス感染症 今まで今後」の講演がありました。クルーズ船 ダイヤモンドプリンセス号、コスタアトランチカ号での、船内診療の様子など、貴重な経験を直接聞くことができ、大変勉強になりました。

熊本市子ども会育成協議会 事務局 吉住嘉美

令和4年度 第53回九州地区子ども会育成研究協議会(長崎大会)参加報告

シニアリーダー 高森 誠

《 大会に参加して 》

長崎大会では、他県の育成者の方々と情報交換をしたり、部会ごとに協議をしたりしたことで、子ども会活動の現状やコロナ禍での他県の取り組みについて知ることができ、たくさんの学びがありました。

特に部会では、「コロナ禍の今、私たちにできること」の大会サブテーマについて、「マンダラート」という技法を用いて、様々なアイデアを出し合っていました。それぞれの班で活発な意見が出ていて、私たちの班では「情報発信」や「活動の工夫」などが大切なキーワードとしてあがりました。子ども会活動は、活動の魅力が保護者の方に伝わっていなかったり、コロナを理由に活動がなくなってしまったりする現状があると思います。

私は、積極的に運用されている熊本市子ども会育成協議会のホームページを、もっとたくさんの人に見ただけのようにSNSなどで情報を発信することや、シニア・リーダーとして、ジュニア・リーダーの中学生・高校生にレクリエーションゲームなどを教えていきたいと思いました。コロナ禍でも、子ども会活動のためにできることを考えて実践していきたいです。

